

【2】 クラブの状況(外部)

側面	課題			
	国際(RI)	国内	地区(第2729)	分区(鹿児島中部)
規約面	次々に規約改正を進めている。新しい時代のロータリー像へと、各国のRCに対し意識改革を迫っている	RIに対する根強い反発あり 日本の影響力が落ち、意見がRIで通らない事へのいら立ちも・・・	割かしRIの意向に従っているが、根強い反対勢力あり	RIの方針に従っている
手法面	新しいプログラムを開発し、展開している	RIに対する根強い反発あり 「本来あるべき姿」や「道義」論を展開する方々も・・・	割かし新プログラムへ移行しているが、「本来あるべき姿」や「道義」論を展開する方々も・・・	新しいプログラムへ順応しようと努力している
増員面	拡大・増員をあからさまに目指している。数は力なりの原理で発展途上国への展開を急速に進めている	やっとプラスに転じてきている。均衡状態(±0程度) 会員が減るとゾーンが減りRI役員数が減り、増々RIへの日本の発言力が弱くなるなどの危機感がある	地域経済はまだ回復の兆しはなく、会員増強も思うように進まないが、全国的には頑張っている方である。	会員数も平衡路線をたどっている。増強というより、現状維持、退会防止が必須課題となっている
広報面	大々的に宣伝広告をする方向で進んでいる	一部の分区ではロータリーデーに合わせて宣伝広告を行っているが、まだ限定的である	一部のRCにて始めているが、まだ本格的ではない	加治木RCが「相談会」(略称)にて実施した
文化面	欧米におけるRCの運営はフランクになってきており、例会も格式ばったものから、自由スタイルに変わってきている。例えば、ビジター席もなく、適当に座りなさいといった感じである	「RC例会は儀式である」といった感覚が強い 特に歴史のあるRCになるほど、格式を重んじる	一昔は格式を重んじて、会員学歴や所属組織の格付けなどがあったが、今は薄れてきている。	和やかなクラブが多い 但し、分区内(クラブ間)の交流は少ない
社会面	社会的にもロータリークラブの存在が認知はじめてきている。特に発展途上国ではその傾向が強い	ロータリーは広報するものではなく、職業奉仕など5大奉仕を通して、寡黙に人知れず貢献するものであるとの意識がまだ強く、ロータリーの知名度は低迷している	ロータリークラブの活動の認知度はまだ限定的である しかし、地道な活動により社会的な貢献は積み重ねている	RCの活動の認知度はまだ限定的である しかし、各RCそれぞれの立場でできる社会貢献を具体的に展開している
資金面	RI本部の費用比率が高すぎるとの意見が出ているが、あくまで必要経費との見解である	規模縮小で運営できず、解散あるいは合併が多く発生している地区もある	地区の蓄えも底を尽き、都城事務所の運営まで厳しい状況にある。このまま行くと地区間の統合もありうる	会員数も減り、各RC資金面では苦しいが、やりくりをして維持している 反面スリム化も進み、状況に見合わない経費は削減され、コストコントロールをうまく行っている